

# 「沖縄関係ニュースなど」更新時の代表のサマリー

## 2021.01.04 更新～2021.04.29 更新

### ☆2021. 04. 29 更新

- ・ 辺野古護岸着工から4年。埋め立ては約5%にとどまる。「諦めない」ことこそ肝要。市民は抗議行動の継続を誓う。
- ・ 重要土地調査規制法案。国会での政府答弁で、土地所有者の情報を内閣情報調査室や公安調査庁などの情報機関に提供する可能性があることを示唆。まさに軍機保護法、要塞地帯法の再来。
- ・ 対中国のミサイル要塞にされていく南西諸島 自衛隊の「南西シフト」。背後にアメリカの作戦構想があり、その名も「琉球の防壁」。“先島限定戦争”の可能性が浮上してきている。
- ・ 4月28日の「屈辱の日」に、辺戸岬での記念撮影に写り込んだ低空飛行の米軍機。日本復帰からもうすぐ49年目の沖縄の現状が表れている。
- ・ ウオーキング中の女性を米軍属が暴行し殺害した事件から5年。「事件、風化させたくない」「忘れないこと。繰り返させないこと」

### ☆2021. 04. 24 更新

- ・ 沖縄振興特別措置法（沖振法）が2021年度末に期限が切れる。自民党は「単純延長はない」として、財政力がない（コロナ禍でより苦境に陥っている）沖縄県内自治体を揺さぶっている。
- ・ 24日、辺野古の浜で、護岸着工4年目の抗議集会。「勝つことは諦めないこと」
- ・ 16日、在沖米海兵隊は、伊江島の補助飛行場敷地を使って、離島への攻撃を想定した「遠征前方基地作戦（EABO）」の訓練を報道陣に公開した。  
偵察部隊がパラシュートで舞い降り、間もなく通信設備、給油装置、海水浄化装置、医療テント、調理場……。多くの離島を抱える沖縄が、有事には最前線に立たされる。

### ☆2021. 04. 19 更新

- ・ 遺骨残る土砂採取の問題。沖縄県は、私権制限へ強い懸念があつて企業の採掘届に禁止命令踏み込まず、一時的な制限措置命令とした。ガマフヤーの具志堅代表は「残念越して憤り」と悔し涙。辺野古の埋め立てをやめることこそが重要だ。
- ・ 日米共同声明は、要するに、沖縄が米中対立の下で最前線に立たされる、標的になるというこ

とだ。日米両政府にとって、沖縄はいつも「捨て石」ということか。

#### ☆2021. 04. 14 更新

・「普天間返還合意」から25年。普天間返還はいつのまにか「辺野古新基地建設」にすり変わってしまった。

連日の100デシベル超えの爆音。負担軽減どころか、普天間基地周辺住民の危険、健康被害は増すばかり。基地の中に取り込まれてしまった先祖のお墓。清明祭の墓参りにも米軍の許可が必要…「いつまで続くのか」

・コロナ蔓延で、普天間飛行場の返還求める集会が中止となり、辺野古新基地建設反対のキャンプシュワブ前の座り込みもしばらく休止、5・15平和行進も規模縮小、残念。

・遺骨残る土砂採取は中止を、という切実な声に、政府は耳を傾けるべきだ。

#### ☆2021. 04. 09 更新

・耳を覆う爆音で入学式が中断。卒業式の、入学式の時間帯は付近での訓練は止めて欲しいと、何度申し入れても、無視され続けている。

・空自那覇基地から抽出した泡消火剤。防衛省は、当初「有害物質は含まれていない」と発表。民間や自治体が調査してPFOSを検出して強硬に調査を求めた。

1ヶ月も経ってから、防衛省はようやく「実は国指針の128倍の有機フッ素化合物が含まれていた」と発表。

・米軍も自衛隊も、住民の健康は二の次三の次。「国を守る」「防衛、安全保障」とは何？住民に犠牲を強いるということ？

#### ☆2021. 04. 04 更新

・4月2日、読谷村のチビチリガマで85人が犠牲となった「集団自決（強制集団死）」から76年目。

・検定教科書には、沖縄戦について「日本軍はよく戦い、沖縄住民もよく協力しました」とし、鉄血勤皇隊やひめゆり学徒隊を殉国美談とするかのような記述もあり、元学徒から怒りの声が上がっている。

・陸上自衛隊と米海兵隊が名護市辺野古の米軍キャンプ・シュワブの共同使用についての極秘合意。防衛省は計画図面の存否も明確にしていない。

・普天間基地での夜間早朝の米軍機離発着が増えている。「心身がおかしくなりそう」米軍基地への苦情が過去最多。

#### ☆2021. 03. 30 更新

空自那覇基地が2月に泡消火剤が漏出した事故。当初「有害物質は混ざっていないと断定していたが、配管に残っていた有害物質PFOSが漏出した可能性を認めた。追及がなければ頬被りする気だったのでは？

普天間飛行場フェンス沿いの市道11号、約3.5kmの道路が42年かかってようやく全線開通。政府の政治的思惑でここまで引き延ばされてきた。

28日的那覇市での不発弾処理。5000人が一時避難。「沖縄戦」は今も沖縄の人々の日常から消えてはいない。

#### ☆2021. 03. 25 更新

沖縄ではまた「コロナ」感染拡大が始まっている。米軍関係者の感染も多い。海外から来る米軍関係者を日本政府がチェックしない・できない、そのツケを沖縄が背負わされているのはいかにも理不尽だ。

第3次嘉手納爆音訴訟、最高裁は上告棄却。米軍機飛行差し止めを認めず。飛行差し止めを求める第3次普天間爆音訴訟、1166人が追加提訴し、原告は5347人に。

「沖縄戦の犠牲者の遺骨が残る土砂を辺野古埋め立てに使うな！」の声は、沖縄で、そして世界で広がっている。「本土」ではどれくらいの人知っているのだろうか？

#### ☆2021. 03. 20 更新

基地や原発周辺などを「特別注視区域」として規制をかける土地規制法案。自公両党の修正合意で対象を縮小するというが……。治安維持法も「小さく生んで大きく育てる」の典型例だった。歴史を直視しなければならない。

米軍の沖縄駐留の「持続は困難」と米会計検査報告。しかし米軍駐留に代わる（米軍と一体化した）自衛隊配備が進んでいる。むしろ沖縄の「要塞化」はより進行すると懸念される。

#### ☆2021. 03. 15 更新

東村高江で、銃で武装した米兵約20人が県道を徒歩で移動。

このところずっと、頻回に目撃される軍用機の超低空飛行。

そして今年に入って5度目の津堅島沖で米軍がパラシュート降下訓練。

外来機F35B連日飛来普天間飛行場周辺騒音の最大値123デシベル。

沖縄の住民の日常の暮らしの中に「戦争訓練」が入り込んでいる…平和的生存権を具体的に侵しているのではないか？

### ☆2021. 03. 11 更新

・2月26日の航空自衛隊那覇基地から泡消火剤が流出、飛散した2月26日の事故。空自は「有害物質は含まれていない」と説明していたが、専門家が分析した結果、PFOSが検出された。意図の有無はともかく、自己を軽く見せるために虚偽説明をしていたことになる。

・その沖縄・空自が、地元の反対よそに、嘉手納基地でPAC3の初訓練。地元住民を見下し、犠牲を強いた旧日本軍と同じ目線になっていないか？

・辺野古新基地建設の埋め立て変更承認申請で、県から意見を求められていた名護市の渡具知武豊市長は8日、県に「市長としての意見は存在しない」とする旨の文書を郵送した。12月の市議会で「意見案」が否決されたから、というのだが、3月議会に再提案することなく「意見なし」としてしまうのは、あまりにも無責任ではないだろうか。

・「ガマフヤー」の具志堅さんのハンスト終了。「遺骨が残る土砂を辺野古新基地に使うな！」の声は大きく広がっている。

### ☆2021. 03. 06 更新

・政府は、今国会で「重要施設周辺および国境離島等における土地等の利用状況の調査および利用の規制等に関する法律案」を成立させようとしている。

基地周辺での土地利用を規制し、土地所有者の個人情報や利用実態を調べて、場合によっては利用中止を命じることができるとする。市民による基地監視などの平和運動と経済活動の両面に影響を与えることが予想される。

・米CNNは、自衛隊の集団的自衛権の行使を許容する安保関連法の施行後、自衛隊による米軍の艦艇や航空機の防護任務が2019年の計14回から20年には計25回へと大幅に増加しており、日米の軍事協力が拡大しているなどと5日までに報じた。

・沖縄での米軍機の（自衛隊機も）低空飛行は続いている。本土でも危険な低空飛行を繰り返されている。急増した低空飛行訓練、何を目的に？

・「ガマフヤー」具志堅さんのハンスト。次々と激励の人が訪れ、署名も2万人を超えた。NYでも具志堅さん応援集会が開かれた。しかし、沖縄防衛局は「遺骨収集と埋め立て工事は次元の違う話」として向き合おうとしていない。

### ☆2021. 03. 02 更新

空自・那覇基地で泡消火剤が流出。「有害物質は含まれない」と発表しているが、製造元資料に「危

険」の表示があり、呼吸器や皮膚などに有害性があるという。

米軍機の低空飛行訓練は続いている。自衛隊機も慶良間諸島で低空飛行訓練をしている模様。

「沖縄戦の犠牲者が眠る南部の土砂を辺野古埋め立てには使うのは間違っている」とガマフヤーの具志堅隆松さんがハンガーストライキ。

「戦没者を2度殺すのか」…激励に訪れた91歳の島袋文子さんの言葉。

#### ☆2021. 02. 26 更新

- ・ 辺野古県民投票から2年。「本土」は沖縄の民意に答えていない。

- ・ 25日、日米合同委員会は、嘉手納飛行場で航空自衛隊が訓練を実施すると合意。基地の共同使用に初合意した。

辺野古新基地でも共同使用の密約があるという。日米の軍事一体化（米軍に基地と自衛隊を「差し出す」）がますます進んでいく。

#### ☆2021. 02. 22 更新

抗議を無視して繰り返される米軍機低空飛行。本土政府は「訓練は日米安保条約の目的達成のため重要だ」との立場。

誰が何のために何を守っているのか？

普天間基地内のお墓の移転。資材置き場拡張のためという。普天間基地の早期返還などという観点はまるでないようだ。

#### ☆2021. 02. 18 更新

民間地域で繰り返される“恐怖”の米軍機低空飛行。沖縄だけでなく全国の基地周辺でも相次いでいる。菅首相は「訓練は日米安保条約の目的達成のため重要だ」という。

「住民より軍隊（優先）」。

だからこそ、日本国憲法9条は、戦争放棄のみならず、戦力（軍隊）不保持を明記しているのではないのか？

#### ☆2021. 02. 14 更新

地上すれすれの低空飛行、深夜・早朝の飛行訓練、耳をつんざく騒音、ところ構わずのヘリからのつり下げ訓練。

地元の再三の中止要請にも拘わらず、こうした米軍の訓練は傍若無人に行われている・・・曰く

「必要な訓練だ」。しかしスーパーボウル期間中は運用を休止するという。あまりにも沖縄の人々をバカにしていないか。

そして沖縄での米軍関係者の凶悪犯罪は日々発生している。

#### ☆2021. 02. 09 更新

浦添市長選、那覇軍港移設反対の新人は敗れ、現職が3選。しかし本当に民意は「軍港移設推進」なのだろうか？来年の沖縄県知事選に向けて玉城知事の求心力が問われる。

辺戸岬周辺で米軍機が地上スレスレの低空飛行。このところ、危険な低空飛行が繰り返されている。

#### ☆2021. 02. 05 更新

辺野古サンゴ訴訟、福岡高裁那覇支部は、沖縄県の請求を棄却した。「地方自治」を蹂躪する暴論が司法の場で罷り通る理不尽。

浦添市長選終盤。那覇軍港移設問題が争点。「オール沖縄」の間でこの問題への見解が分かれているが・・・

#### ☆2021. 02. 01 更新

那覇軍港の浦添移設問題が最大の争点となっている浦添市長選、熱い選挙戦始まる。

辺野古新基地への陸自「離島部隊」常駐密約問題、そしてコロナ禍。沖縄県の中止要請を無視して日米共同訓練（上陸訓練）が強行された。とはいえ海自輸送艦に不具合が発生して一部は中止に。

<琉球新報>・2021年1月29日 10:37

【動画】日米共同訓練を強行 沖縄県のコロナ自粛要請に応じず 2700人参加

<https://ryukyushimpo.jp/movie/entry-1263869.html>

沖縄県は基地問題冊子を更新。県民投票結果や辺野古沖軟弱地盤の問題を入れた。冊子は県ウェブサイトからダウンロードできる。

#### ☆2021. 01. 28 更新

辺野古新基地に陸上自衛隊離島部隊（水陸機動団）を常駐させるという、海兵隊と自衛隊のトップが極秘合意が明らかになった。

「辺野古新基地は、自衛隊も共同使用する施設として計画されているらしい」ということは、座り込みをしている市民の間でも大分前から言われていた。

岸防衛大臣は、陸自施設の図面の存在を認めながらも、辺野古の陸自配備はないといい、菅首相も将来的な可能性も否定する。

だが極め付きの嘘吐き政権（安倍政権）のより悪しき後継政権である。信用ならない。

玉城知事「県民感情として認められない」という、当然である。

沖縄選出野党議員は「徹底調査と真摯な説明を」と政府に求めている。

### ☆2021. 01. 24 更新

玉城デニー知事は、米バイデン新政権へ、沖縄の現状を伝えて辺野古新基地の見直しを訴える書簡を送った。しかしバイデン新政権は「名護市辺野古への移設が唯一の解決策」との方針を変えず。

キャンプ・シュワブで43人のクラスター。県外訓練から沖縄に帰ってから発症。米兵の移動を制御できないことが、沖縄の重荷になっている。

特殊部隊元トップが、現役自衛官を募り、私的に戦闘訓練を指導していたことが発覚。それは許されることか？

高江周辺への県外機動隊派遣の違法性を問う住民訴訟の口頭弁論の傍聴券抽選に多数の警察官が参加。開廷すると傍聴席は空席が目立った。抽選に漏れた住民は「傍聴する権利の侵害だ」と問題視している。

### ☆2021. 01. 20 更新

宮古島市長選は、座喜味氏が初当選。「オール沖縄」久々の勝利でデニー県政に追い風。

菅首相、初の施政方針演説で「沖縄の心に寄り添う」という言葉のハタから「辺野古沖への移設を進める」…本土政府はずっとこの言い方をしてきた。

普天間飛行場で、5日間連続で騒音規制時間外にオスプレイの夜間飛行が行われた。オスプレイの騒音は物凄い、眠ることなどできない。

嘉手納基地周辺の地下水から有害フッ素が指針値の60倍。基地の危険性はこういうところにも。

### ☆2021. 01. 16 更新

2020年12月末、恩納村の海岸に座礁した辺野古新基地建設用の土砂台船が、2021年1月14日に撤去された。

座礁船によるサンゴ損傷は著しい。辺野古埋め立ての「工事」関連で、すでに沖縄の海を傷つけている。

1971年沖縄の毒ガス移送から50年。新たに判明した事実も。

米軍機の慶良間での超低空訓練に対して、沖縄県議会軍特委が抗議決議。岸防衛相は改めて「訓練容認」の姿勢を表明。

### ☆2021. 01. 12 更新

米軍機の超低空飛行。岸防衛相は低空飛行との見方を否定して、米軍の訓練飛行を追認。

半世紀前の自衛隊沖縄移駐。旧日本軍の振る舞いの記憶が残るウチナンチュの目は冷たかった。

1960年代、米軍は沖縄に毒ガス兵器庫増設を検討したが、住民の闘いで撤去させた。

宮古島市長選、2氏激突。しかし「本当は、陸自配備に反対の候補が出てほしかった」と住民には不満がある。

#### ☆2021. 01. 08 更新

慶良間諸島で相次ぐ軍用機の超低空飛行。米軍は「これまでも実施してきた典型的な飛行訓練」と回答。

防衛大臣は、当該区域は米軍の訓練地域ではないとした上で「日米安保条約の目的達成のための重要な訓練だ」と追認。

【琉球新報 動画】低空・爆音、旋回何度も…米軍機か

<https://ryukyushimpo.jp/movie/entry-1252462.html>

第32軍司令部「留守名簿」で、「軍隊は住民を守らない」という沖縄戦の教訓がまた明らかになった。

また「特殊軍属」として、日本軍が「慰安婦」を動員していたことも裏付けられた。

#### ☆2021. 01. 04 更新

日本政府は口先では「沖縄の負担軽減」というが、実際には沖縄の基地被害は増大している。

米国バイデン新政権は辺野古新基地建設推進の立場。道は険しい。

半世紀前、沖縄県民は自衛隊の沖縄移駐に強く反発した。自衛隊の「南西諸島シフト」が進む今は？

第32軍司令部留守名簿公開。司令部構成の実態の一端が明らかとなり、県出身者の民間人が数多く徴用されていたことや朝鮮籍2人の氏名も分かった。